View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

韓国における学校舞踊教育の展開

文学研究科教育学専攻博士後期課程在学
金　保　延
KIM BO YEON

Ⅰ．　はじめに

韓国の文化芸術教育政策と学校舞踊教育に関するベク・ジョンヒ（2016）の研究によれば、グローバル時代である現代社会では、創意的な人材が国家の競争力として求められ、創意的な考え方が核心になる文化芸術分野が改めて注目されている。そのために、教育課程では、知識を基盤とする創意的な考えや想像力を強調しながら、新しい知識の創出と開発ができる人材の養成を目指している[1]。そのような時代の流れに乗った韓国は、近年の学校教育課程で、未来の社会が求める核心力量を培い、豊かな人柄をそなえた人材の養成を目指している。言い換えると、①自己管理、②知識情報処理、③創意的な思考、④審美的な鑑賞、⑤意思疎通、⑥共同体の力量を備えた、創意的な融合ができる人材という意味として「創意融合型の人材」の言葉を目指す人材相に掲げている[2]。そのために韓国で近年さらに求められる教育が、「文化芸術教育」であり、「芸術を通す教育」として舞踊及び演劇、映画、国楽、デザインなどの文化芸術分野が学校で教えられている。

イ・ウンギョン（2017）によると、韓国の芸術教育政策は 2004 年に開始され、2008 年には「文化芸術教育発展方案」を公表するとともに文化芸術教育政策の対象を全国民に拡張した。その後、文化芸術教育は、学校と地域社会の繋がりをさらに増進しながら文化芸術教育を支持する政策的な努力を重ねてきた[3]。言い換えると、現在韓国の芸術教育概念は、実技中心の芸術のための教育ではなく、他の科目と統合的な授業を実施するによる、多様な思考ができる「芸術を通した教育」だと言えるだろう。

ここで筆者は、韓国の学校文化芸術教育中、「人間の心から引き出される『美しい動きに対する衝動』から発生し、身振りを通じて物事と人間の内的な要素を結びつける[4]」舞踊を取りあげたい。舞踊

---

[1] 백정희（2016）「한국문화예술교육정책과 학교무용교육의 실천과제 연구」『한국체육학회지』, 55(4), pp.433-442
[2] 「우리나라 교육과정」（국가교육과정 정보센터 http://ncic.re.kr, 2018 年 6 月 25 日　参照）
[3] 이은경(2017)「한국과 미국 초등학교 무용교육과정 비교연구」강원대학교 대학원 무용학과
[4] 김혜정, 서차영, 서영님, 전미숙, 오레지나（2001）『무용이론』, 교학사, pp.6-7

教育について木場（2017）は、ドゥブラー[5]の意見を取りあげながら、「ドゥブラーはダンスを『身体運動を媒体とした自己表現』であるとし、身体を通じて思考や感情を表現するためには、自らの身体の感覚を高めることがまず重要であると考えた」と主張しながら、ドゥブラーは、人間がよりよく生きていくための教育として舞踊教育を教育課程に導入したとのべている[6]。言い換えると、舞踊は、自ら知らなかった新しい一面を発見するとともに他人に対しても改めて考え、他人との関わり及び自分をめぐる環境についてある限界を超えての理解を可能にする。これが、舞踊が学校教育として持つ価値であり、筆者が文化芸術教育の中で舞踊教育を取りあげる理由である。

したがって本稿では、舞踊教育がさらに求められ教育として発展しつつための研究として、韓国の学校舞踊教育展開の検討を目的とし、韓国の舞踊教育は、いつから教育課程として成立し、何を目指し、どのような内容の構成で教えられたかについて概観する。そして、教育課程を時代別に分け、韓国で近代の学校が成立された①朝鮮末期（1876～1945）、②解放以降の教育に対する緊急な措置と教授要目期（1945～1954）[7]、③教科課程期（1954～2006）、④改訂教育課程期（2007～現在実行されている 2015 年改訂教育課程）のそれぞれ、各教育課程による学校舞踊教育について述べたい。朝鮮末期から教科課程期までは、近代からの舞踊教育の変遷については、ユ・ミヒ（2006、2009）とキム・ジョン（2010）の先行研究を主に参考する。加えて、韓国での学校舞踊教育は、最初から体育教科に属されており、現在の小・中等学校の教育課程でも体育教科の一領域として教えられている。したがって、舞踊教育を述べるためには体育教科の内容と共に論じるべきあり、大学舞踊教育に対しても独立学科として成立される前までは体育教育を含む。

Ⅱ．近代の学校が成立された朝鮮末期（1876～1945）

1．時代的な背景と教育の動向

朝鮮は興宣大院君の執権時に通商修交を求めるフランスとアメリカを撃退し、通商修交拒否政策を施行した。しかし興宣大院君が退くと高宗が直接権力を行使し、開港の必要性を本格的に検討するよ

[5] マーガレット・ドゥブラー（Margret H’Doubler,1889-1982）は、舞踊教育の実践を体系化し、1926 年には同校に世界初となるダンス専攻（Dance major）を設立したのである。また、ドゥブラーは舞踊教育を通じ、感情を身体に対する理解と結びついた上で、「人格の完成という教育の究極的な目的にダンスが貢献すること」を目指したのである。ドゥブラーの舞踊教育の実践は日本の舞踊教育者にも知られており、『人間の教育としての舞踊』と高く評価されている。木場 裕紀（2017）「アメリカ高等教育におけるダンス教育の誕生―カリキュラムの観点から見たマーガレット・ドゥブラーの業績の再評価―」『教育学研究』、84 巻（2017）2 号、77 頁

[6] 木場 裕紀（2017）「アメリカ高等教育におけるダンス教育の誕生―カリキュラムの観点から見たマーガレット・ドゥブラーの業績の再評価―」『教育学研究』、84 巻 2 号、78 頁

[7] 韓国の教育系で教育課程を分ける名称に従うことである。「교육변천」（한밭교육박물관、http://www.hbem.or.kr 2018 年 7 月 03 日　参照）

うになった。このとき日本は雲揚号事件を起こし、その結果、「江華島条約」が締結された（1876）[8]。朝鮮は開港によって外国人が入り混じって暮らすようになり、近代都市の様相を帯び始めた。そして、朝鮮の中央政府、民族の先駆者、キリスト教の宣教師たちが中心になり、近代学校が設立されたのである。外国との通商が始まるによって 1883 年に外国語の教育機関であった「同文学（ドンムンハク）」が、1886 年には朝鮮後期の韓国最初の近代式公立教育機関「育英公院（ユクヨンゴンウォン）」が設立された。また、1895 年 2 月 2 日に、高宗は「教育立国調書[9]」を発表し、伝統的な儒教思想をなくし、知育・徳育・体育を強調した（ユ・ミヒ、2006）[10]。

その後、各地域に近代学校が設立され、1897 年に高宗は、「大韓帝国の樹立を宣布し、皇帝権の強化や自主権の守護、富国強兵を目標とする改革を推し進めた」のである。また、「大韓帝国は殖産興業政策を掲げて商工業を振興し、人材を養成するための近代学校を樹立するに力を注いだ」[11]。

1905 年、日本と「乙巳条約[12]」を締結した後、日本の植民地になったために行われた「同化政策」によって大韓帝国の近代学校は、植民地教育機関になった。それによって、民族系の私立学校では教育を通し国権を回復しようとする運動を行い、キリスト教系の私立学校では、自由・平等思想に基づいた民族指導者の教育を実行した。その結果、日本の監督機関は、教育政策に従わない民族系とキリスト教系の私立学校を統制した。日帝初期（1910 年～1919 年）には、韓国人のための教育機関が日帝によって減らされた。また、日帝中期（1919 年～1937 年）の「3.1 運動[13]」以降には、民主共和政を目指した「大韓民国臨時政府[14]」が樹立された。それによって、各地方に一つの「普通学校[15]」の普及政策が推進され、普通学校が増加した。加えて、管・公立専門学校及び私立専門学校が設立され、植民地大学を設置することによって新しい高等教育の時代が開かれた。日帝末期（1938 年～1945 年）には、日本内の学校と同一になり、学習より戦争に必要な物の生産と軍事施設の建設に必要される人力

---

[8] 三橋広夫・三橋尚子訳（2015）『東アジアの歴史―韓国高等学校歴史教科書』明石書店、176 頁

[9] 「教育立国調書 」の内容；①教育というのは国家保存の根本であり、②新教育は科学的な知識と新学問の実用を追求することに存じ、③教育の 3 代綱領としてとして知育・徳育・体育を取りあげ、④教育立国の精神によりたくさんの学校を設立する中で、人材を育てることこそ即、国家中興と国家保存に直結することである。
「교육입국조서」（한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr、2018 年 6 月 17 日　参照）

[10] 유미희(2006)「근대 경기(京畿)의 학교무용교육 고찰―개화기에서 1945 년까지―」『기전문화연구』, 33, pp.147-149

[11] 三橋広夫・三橋尚子訳　『東アジアの歴史―韓国高等学校歴史教科書』　明石書店、2015、p.186

[12] 1905 年、韓国の外交権を失わせるために強制的に締結された条約。「교육입국조서」（한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr、2018 年 6 月 17 日　参照）

[13] 3.1 運動；日本の武断統治で苦痛を味わっていた韓国人たちは 1919 年、高宗の葬儀の日を控えた 3 月 1 日に独立万歳を叫ぶ万歳デモを展開した。三橋広夫・三橋尚子訳（2015）『東アジアの歴史―韓国高等学校歴史教科書』明石書店、189 頁

[14] 1919 年中国の上海で韓国独立運動者たちが樹立した臨時政府である。独立精神を集約し、韓国の民族が主権国民であることを表し、独立運動をさらに発展させるためにつくられた。

[15] 現在の初等学校に当たる教育機関。「보통학교」（한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr、2018 年 7 月 03 日　参照）

を育てるための教育が行われた[16]。

2. 学校舞踊教育

体育が最初に教科として導入されたのは、1886 年韓国に入国したアメリカの宣教師 H.G Underwood が現在のソウルに設立した「儆新学校（ギョンシンハッギョ）」である。「娯楽」という教科目を置き、現在のスポーツに該当する遊戯の概念として行った。娯楽によって体力を磨くことであった。そして 1891 年には、毎日の最初の授業で 30 分ぐらい体操時間があり、身体鍛錬のために実行された。さらに、1892 年「梨花学堂（イファハクダン）[17]」に体操教育が正規科目として編成され、女性が身体教育を初めて受けた。また 1895 年に、「教育入国招書[18]」が発表されるとともに体操が正式教科目として採択された。1906 年からは私立女子学校が増え、女性教育が向上する中、女子学校の運動会での遊戯は舞踊のような性格を表した。加えて、運動会は遊戯が行われる代表的な場所であり、リズムに合わせ集団的にするマスゲームのような形式であった。そして、1903 年以降から普及された体育の舞踊としては、フォークダンス系のマスゲームと、表現体操や表情遊戯[19]のような音楽に合わせた表現活動があった。1930 年代になってから遊戯は、特に女子学校の学芸会と運動会でさらに発展した。当時、女子学校の体操教師はほとんど日本人であり、それにより表情遊戯創作を豊かにさせるとともに、運動会の主要種目になったのである。さらに、ユ・ミヒ（2006）はこれについて、女性なりの美しさを培うために、高級な曲を使い、芸術性を持つ体育としての舞踊教育を目指されたとしている[20]。

Ⅲ. 解放以降の教育に対する緊急な措置と教授要目期（1945～1954）

(1) 時代的な背景と教育の動向

韓国の学校教育は、日本の侵略戦争から解放された 1945 年 8 月の後、国家発展と安定のため韓国なりの教育展開を始めた。また、民族の主体的な新しい民族文化を樹立することは教育にもつながり、教育体系の整備が優先になった。そして同年 9 月、韓国の発展のために新しい教育方針が決定され、教育体系確立の第一歩を踏み出した。当時の教育方針の中での教育上の優先項目は八つあり、その第

---

[16] 유미희（2006）「근대 경기(京畿)의 학교무용교육 고찰 - 개화기에서 1945 년까지-」『기전문화연구』, 33, pp.147－151

[17] 朝鮮時代に宣教師によって創設された私立女子教育機関。

[18] 1895 年 2 月 2 日に高宗から表れた教育に対する特別詔書である。「교육입국조서」（한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr、2018 年 7 月 03 日　参照）

[19] 当時、日本の児童教育課程で行ったことであり、唱歌を歌いながら、動作をなすことである。中川済（1903）『児童表情遊戯』三育社、5－6 頁

[20] 유미희（2006）「근대 경기(京畿)의 학교무용교육 고찰 - 개화기에서 1945 년까지-」『기전문화연구』, 33, pp.151－163

7 番に、芸能を重視しその中で豊かな人柄を培うことが、第 8 番目に、体育を積極的に奨励し、敬虔な気宇を培うことが内容であったのである。加えて、各学校で米国軍人たちが遊戯を教えるようにした。第一共和国では、初等学校の無償義務教育の実施、教育の自治体の実施、研究学校・総合高等学校の設置、学校教育課程の制定が行われた。また第二共和国では、市・都の確立、教育の質的向上を目指したが、社会の混乱が続き、実効は上がらなかった[21]。

(2) 学校舞踊教育

① 小・中等学校の舞踊教育

1945 年、最初の小学校教科目として編成された 8 つの教科目の中に体育が含まれ、毎週 3 時間の授業が行われた。その後、体育は体操に変わり、1946 年にまた改訂された教授要目では、保健という名に変わり、年 200 時間教育することになった。そのなかに舞踊の領域があり、基本動作と踊りが指定されたが、具体的な内容の体系は曖昧であり、教授するに難しさがあったと考えられる。中・高等学校では、小学校と同じように体操の中で基本動作と踊りが指定され、体育教科が国語・英語・数学以外の科目に比べると比重があったが、舞踊教育はその目的と内容が曖昧だったのである（ファン・スックヨン、1998）[22]。

② 大学舞踊教育

1945 年 10 月、梨花女子大学（イファ女子大学）に体育科が創設され、体育学の学問が本格的に展開したのである。体育学科の教育課程に実技中心の舞踊教育が構成され、踊りの大家たちがフォークダンスと韓国舞踊（伝統民族舞踊）を教えた[23]。また、1955 年には、専攻別による機能を教育するために、体育科の内に体育学専攻・健康教育専攻・舞踊専攻と分離し、舞踊専攻では、バレエと伝統舞踊が教えられた。そして 1958 年に舞踊専攻として最初の修士学位者二人が生まれ、これは舞踊教育が体育の統合的な一分野で大学教育として認められるきっかけになったのである（チェ・ギョンヒ、2000）[24]。

---

[21] 「우리나라 교육과정-1 차 이전」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 12 日　参照）

[22] 황숙영(1998)「해방이후 무용교육의 사적 의의―1945 년～1959 년을 중심으로―」이화여자대학교 교육대학원, 석사학위 논문, pp.27－30

[23] 유미희 (2009)「한국 무용교육의 변천과 과제―해방이후를 중심으로―」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp.6

[24] 최경희(2000) 「한국 대학 무용과의 특성화를 위한 교육과정 개발에 관한 연구」, 이화여자대학교, pp.9

Ⅳ．科課程期（1954～2006）

(1) 時代的な背景と教育の動向

教科課程期は、1954 年の第 1 次教育課程から始め、1997 年表れた第 7 次教育課程までの時期である。

1945 年に韓国が作った最初の教育課程は、**第 1 次教育課程（1955 年～1963 年）**である[25]。1950 年に起こった韓国戦争によって止まっていた教育課程の開発が、再開され、学校の教科組織が体系的になった時期である。また、ファン・スックヨン（1998）によれば、第 1 次教育課程における教科内容は、暗記中心の教育より、能動的な学習を求め、生徒の個人差を考慮するとともに日常生活で必要な知識、態度、機能などを習得させる教育が強調された[26]。

また、**第 2 次教育課程（1963 年～1973 年）**は 1963 年に改訂された。教育課程で強調したことは、①確固たる民主的な信念・反共精神を持ち、民主的な生活を発展させる人間の養成、②民族的な気風と共に国際協力的な精神を培う、③生活で当面する問題を解決するに必要な知識と科学的な生活の態度を育む、④貧困を克服し経済的な効率性を増進する、⑤健全な精神・強健な身体を育む、⑥審美的な情緒を培う、⑦形式的・抽象的であった知識から離れ実質的な知識を教える[27]、であった。さらに、ユ・ミヒ（2009）は、第 2 次教育課程の教育の方向について、革命政府による課業を完全に成し遂げるために、初等学校から大学まで保健体育の時間を大きく拡大し、体育考試を実行しながら学校の体育教育を強化させたと述べている。また、その時期から体育教科目は、「保健・体育」という名から「体育」に変わり、第 7 次教育課程までそのまま続いた[28]。

また、教育課程の変遷について研究したキム・ジョン（2010）によれば、1970 年代の政権では、急速な経済の成長による学校教育の拡大を求め、教育に対する関心と投資を増加した。それによって**第 3 次教育課程（1973 年～1981 年）**の時期には、国民の全般的な教育レベルが向上された。また、教育の過程で目指したことは、従来の漠然とした教育の目的から離れ、知識構造の体系化、基本概念の理解、知識の構造的な学習と探求能力であった。さらに体育教育は、民族文化・国家安保・自主性を強調しながらエリート教育が行われたのである[29]。そして、**第 4 次教育課程（1981 年～1987 年）**は、強圧的な権威主義が国民を統治し、それに対抗する民主化運動が起こった時期であった。そこで政権は、

---

[25] 「제 1 차 교과과정기」（한밭교육박물관、http://www.hbem.or.kr、2018 年 7 月 03 日　参照）

[26] 황숙영(1998)「해방이후 무용교육의 사적 의의—1945 년～1959 년을 중심으로—」이화여자대학교 교육대학원, 석사학위 논문, pp.30

[27] 「우리나라 교육과정—2 차시기」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 21 日　参照）

[28] 유미희 (2009)「한국 무용교육의 변천과 과제—해방이후를 중심으로—」『한국무용교육학회지』,20(2), pp.8

[29] 김지영 (2010)「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析—1954 년부터 2007 년까지—」한국체육대학교, 석사학위논문, pp. 25-30

社会の混乱を解決するために国民の関心をスポーツに誘導しながら体育分野を求めた。そして、教育の正常化のために 1980 年 7 月に「7.30 教育改革[30]」が断行し、健康な体と精神を持つ人間、審美的な人間、合理的な問題解決ができる人間、人間を尊重する道徳的な人間、次週的な人間の養いを目指した。言い換えると、全人教育による知・徳・体が調和的に発達する教育内容として心身の育成が強調されたのである。加えて、体力及び基礎運動機能や規則・礼儀などが、体育教科の教育目標になった。また、**第 5 次教育課程（1987 年～1991 年）**であった 1980 年後半には、経済発展が成し遂げられ、それによる国民の所得向上、民主化に対する強い熱望、産業構造の変化等々の国際社会のような様子が現れた。そこで新しい教育が求められ、健康・自主性・創造性・道徳性を兼備した人間の育成を目指したのである。さらに、情報化の社会に対応する教育を強化し、各地域性を考慮しながら教育の効果が発揮できるように展開された。そこで体育教科も健康はむろん、基礎体力に対する知識の習得、正しい人間の育成を強調し、自律性と融通性を目標とした時期であった。続いて、**第 6 次教育課程（1992 年～1996 年）**が求めた教育の目的は、第 5 次教育課程と同じであり、情報化の社会・国際化の社会・文化福祉の社会について用意し、変化する時代に合う人間の育成を目指した。一方、1993 年には「文民政府[31]」により、社会では各分野の分権化と自律、そして国際化と開方化を求め、国の競争力を備えるために国政の全般にかける改革を推進した。さらに、教育分野にも大きな改革が行われ、国民の自我実現が極大化される教育の福祉を目標とした。それは、教育を通した民主化を成し遂げるためのことであり、21 世紀を導いていく人を育てるために第 7 次教育課程の改訂をもたらした。**第 7 次教育課程（1997 年～2006 年）**は、21 世紀の世界化時代を主導する創意的な人材の養成を目指し、自律と創意をもとにした学習者が中心になる教育課程であった。また、情報化・世界化に備えた教育として自己主導的な能力の向上、共通基本教育課程と選択中心の教育課程の導入、教育内容の多様化、教育現場の自律性を拡大[32]したのである。それに従って体育教科は、「国民共通基本教育課程」として構成され、高校まで学ぶ必修科目になり、基礎体力や健康について知識の理解、また、社会から求められる様子の培いを教育の目標とした[33]。

---

[30] 当時、社会の問題だった加熱課外の現状を根絶すること及び、国家教育の基盤を改めて建て上げるための実行であった。「7.13 교육개혁」（한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr、2018 年 6 月 16 日　参照）

[31] 軍人ではなく一般人の出身者が大統領として統治する政府を言うのである。

[32] 1995 年から教育改革委員会では、第 7 次教育課程（1997 年～2006 年）がもとにした、情報化・世界化時代に対し新教育体制樹立のための教育改革方案が部分的に行った。第 7 次教育課程の部分改訂は、2003 年から毎年部分的な改訂が行い、2007 年には一番大きく教育課程が改訂された。その中、教科書に限らず、学校の教育目標に合わせた内容を自律的に教えてきた教科裁量活動・創意的裁量活動が、 創意的裁量活動として縮まれた。さらに、創意的裁量活動という名で週 5 日の授業制による時数減縮のため、裁量活動運営の自律権が政府から学校に与えられた。서예원(2003) 「초등무용교육의 현황과 과제」『한국무용교육학회지』, 14(1), pp.33-34

[33] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제－해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp.8-14

(2) 学校舞踊教育

① 小・中等学校の舞踊教育

第 1 次教育課程（1955 年～1963 年）での体育は保健と言われ、遊び（遊戯）を中心するように指導した。それによって小学校での舞踊教育は「リズム遊び」という名を使い、内容はリズムに合わせた体操遊び、表現遊び、鑑賞、リズム遊びに分かれていた。指導内容は学年の二つごとに結ばれたのである。内容をみると、表現遊びは、基本ステップと教師による即興表現、リズム遊びではリズムに合わせてよく動くようにする訓練、そして鑑賞が構成されていた。また、中等学校の教育としては、舞踊教育の内容が各学年によって分けていたが、内容は同工異曲であった。キム・ジョン（2010）は、この時期に外国の民族舞踊が導入されるともに、動き・リズム訓練・移し・表し・踊りのような舞踊の基礎能力の向上を求める内容が含まれるようになったとしている[34]。

権威主義が入った**第 2 次教育課程（1963 年～1973 年）**では、舞踊教育にとって学年別の学習目標が設定された。また、伝統性を重視しながら、民族舞踊を学校舞踊教育課程に導入した。また、小学校の舞踊は、体育の中、「リズム遊び」の名から「踊りの遊び」に変わり、リズムの訓練、舞踊の基本動作、民族舞踊、音楽に合わせた表現が実行された。そして、中・高学校では、第 1 次教育課程と同じ内容を扱ったが、高校の場合、理論と鑑賞が追加され、外国舞踊と伝統舞踊のより詳しい内容が教育されたのである。そして、**第 3 次教育課程（1973 年～1981 年）**では、踊りの遊びに芸術性を加え、小・中等学校とも「舞踊」の名を使った。そして、小学校の舞踊では、民族舞踊と表現舞踊になり、鑑賞の領域は除かれた。さらに民族舞踊においては、外国の民族舞踊より韓国の民族舞踊を強調、表現舞踊は、事物を体で表現するようにした。また、中等学校では、民族舞踊と創作舞踊が教育の内容であった。また、民族舞踊は、共同心を高めるために韓国の民族遊びや民族舞踊のような団体舞踊が強調されたと言えるだろう。また興味深いことには、女子学生のみが舞踊教育の対象としたのである（ユ・ミヒ、2009）[35]。

第 3 次教育課程の舞踊教育についてキム・ジョン（2010）は、第 2 次教育課程より内容のテーマが分かれたが、実際の内容としてはあまり変わらず、エリート体育を求めた当時の政権によって、舞踊を専門市内一般生徒のための舞踊教育はあまり進んでなかったと述べている[36]。

次に、**第 4 次教育課程（1981 年～1987 年）**では、舞踊教育内容と領域が第 3 次教育課程と同一に

---

[34] 김지영(2010) 「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析―1954 년부터 2007 년까지―」, 한국체육대학교, 석사학위 논문, pp. 12

[35] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제－해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 10

[36] 김지영(2010) 「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析―1954 년부터 2007 년까지―」, 한국체육대학교, 석사학위 논문, pp. 29

学年別に提示され、民族舞踊と表現舞踊が構成された。一方、初めて統合教育課程が適用された時期であり、小学校 1 年・2 年は「楽しい生活」という教科目で、体育、音楽、美術が一緒に扱われた。「楽しい生活」の教科目標には、生徒の興味誘発させる自発的な学習方法が、散財性・創意性の開発と共に強調されたのである。中等学校での教育内容は、基本機能、韓国と外国の民族舞踊、創作舞踊であり、創作舞踊は学習対象を女子学生に限っている。また、人間尊重という教育の構成方向により、身体の不自由な生徒に対する指導内容が初めて言及された（キム・ジョン、2010）[37]。

時代的に新しい教育が求められた**第 5 次教育課程（1987 年～1991 年）**の小学校では、「舞踊」の名から「リズム及び表現」に変わり、動きについての基礎的な内容を教え、模倣の表現、即興の表現、想像の表現をしながら動きの要素に対する認識を明らかにした。そして、動きの内容では韓国の伝統リズムを加えて行った。また、中学校の舞踊教育は、動作の基本要素を加え、自分の感じ・考え・素材による表現を通じ、多様な創作方法を学べるようにした。高校では、基本動きと作品の創り、鑑賞、そして民族舞踊が重要な内容として構成されていた[38]。

キム・ジョン（2010）によれば、**第 6 次教育課程（1992 年～1996 年）**の舞踊教育では、理論的の体系ができたのであろう。さらに、身体的な表現能力を発達させ、動きを通じて自分を感じられる身体感覚の開発と創意的な考えを培うことに重点を置いたと主張している[39]。

第 6 次教育課程は、舞踊が学校教育として最も発展できた教育課程であったのであろう。小学校では、第 5 次教育課程と同じのように「リズム及び表現」の名を使い、1 年・2 年は統合教育課程の体系として編成され、3 年から 6 年までは、動きの基本要素を身につけ、自分の感じと想像したことを表現する内容であった。中等学校では、基本の動き及び、舞踊の歴史と原理の理解（中 2 年）、創意的な表現の態度の養い、舞踊の価値と特性の理解、舞踊形式の理解（中 3 年）という流れであった。さらに、高校では、小・中学校の過程を経た上に、作品の創作と鑑賞を通じ感じたことを表現し、舞踊の美的な特性の理解ができるように実行された[40]。

言い換えると、中学校から高校まで、舞踊の基本動きの学びを始め、模倣・抽象的な思想・創造的表現と個別指導及び作品鑑賞を強調したのである。また、第 6 次教育課程の舞踊教育は、現在、韓国の学校舞踊教育とほぼ同じである。

---

[37] 김지영(2010) 「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析―1954 년부터 2007 년까지―」, 한국체육대학교, 석사학위 논문, pp.36-62

[38] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제―해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 10

[39] 김지영(2010「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析―1954 년부터 2007 년까지―」, 한국체육대학교, 석사학위 논문, pp. 50

[40] 정영둘(1996)「무용 교육 내용의 변천과 그 과제」중앙대학교 교육대학원, pp. 51

最後の教育課程である**第 7 次教育課程（1997 年～2006 年）**の小学校の舞踊教育は、「リズム及び表現」の名から「表現活動」に変わり、1 年・2 年は「楽しい生活」という教科目の中、創意的な表現と審美的な態度を培うことができる統合教科として教えられたのである。イ・ミヨン（2018）によれば、教育の内容は、「遊びと表現・鑑賞・理解」の領域に分かれ、「遊びと表現」は、物事の真似、自由の表現など、具体性が欠如された言葉で表記されている。一方、「鑑賞」では、美しさ、文化という言葉を使い、「理解」の過程を経てより深い内容が教えられたと考えられる。そして、小学校 3 年から 6 年までは、内・外材的な価値を同時に求め、体育教科は「人間の生の質を向上する」ことを目的としたのである。したがって舞踊教育では、動きに対する欲求実現、知識の理解、態度の培いを目標としたと考えられる。ところが、内容的には以前とあまり違ってなく、ただ内容として学年が昇っていくことによって創作表現と民族舞踊の表現活動が必修・選択に分けていた。イ・ミヨン（2018）は、第 7 次教育課程の中心には体育の機能と概念を学ぶことがあり、踊りについての教え方が DVD に代わって行われる場合が多かったと指摘しながら、舞踊教育の量質的な面で足りなかった部分があったと主張している[41]。また、ユ・ミヒ（2009）によれば、中等学校でも小学校とほとんど同じ内容が構成されたのであり、自律を生かし、各学校が創作舞踊・民族舞踊・外国の民族舞踊・モダンダンス・バレエの中から一つ以上を選び教えるようされたのである[42]。

② 大学の舞踊教育

大学校に最初の舞踊科ができたのは、現在の京畿大学である「朝陽保育初級大学」が 1954 年 3 月 30 日に「朝陽保育師範学校」として昇格された際であり、保育科・児童文学科並びに「教育舞踊科」が開設されたのである。しかし、1957 年 12 月に男女共学の「京畿初級大学」に変わり、それによって 1958 年 4 月 7 日に「教育舞踊科」は閉止された。全国的には 1956 年から大学の舞踊学科がだんだん開設され、当時の活躍していた舞踊家らが教師として、授業を担当したのである。また、韓国の大学舞踊は 1960 年代から本格的に発展された。従来、体育学科に属されてきた舞踊教育は、独立な学科として創られ、舞踊の高等教育と創作活動の大きな発展をもたらした。そして、塾を中心に行われた舞踊教育が、正式な教育機関に移し、専門舞踊家たちが教育指導者として多く流入された。さらに、学士出身の舞踊家が増え、舞踊の実技と理論的な研究や公演の創作活動において、以前より専門性がさらに表れる芸術活動を求めたのである。1970 年代からは、同門団体がつくられ、職業舞踊の団体から選ばれなかった大学卒業生らは、同門団体に入り、舞踊の専門性や公演する機会を得た。大学舞踊教育の教科内容としては、舞踊に関する理論的な知識と創作法、また、体育に関する内容も含まれて

[41] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제7차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 263-264

[42] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제―해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 14-15

いた。そして、教育に限らず公演芸術系にも多くの影響を与えた大学の舞踊教育は、1980 年代に入ったから舞踊学科の開設が増え、舞踊系の高い成長が成し遂げられた。しかし、大学の舞踊教育は、専門人力の養成を目標としてきたため、舞踊芸術科・指導者・教育者の養成だけに邁進した。これに対して、ユ・ミヒ（2009）は、社会からの芸術的・学問的・教育的な要求に応えができず、教育課程に多くの問題を持っていたと指摘したうえ、社会の要求に応えるために多様な教科目が開設されたが、実際的な履行においては、実技教科だけに偏重したため、教育内容の多様性が見えなくなったとしている[43]。

Ⅴ．訂教育課程期（2007 年～現在）

第7次教育課程の後に改訂された教育課程は、2007改訂教育課程である。2007改訂教育課程からは、これまでとは異なり、2 年～4 年間隔で随時に教育課程を改訂するようになった。それに従って、第 8 次教育課程という名はなくされ、2007 年改訂教育課程（2009 年～2011 年）、2009 年改訂教育課程（2011 年～2017 年）、2015 年改訂教育課程（2017 年～現在）が施行された。韓国では、21 世紀に入った後から文化と芸術産業がさらに注目されると共に急速な発展が進んできたのである。そして、「文化」と「芸術」の価値を一緒に求めた結果、「文化芸術」という言葉として両領域を扱っており、また、文化芸術教育を通じて創意性・想像力の開発と実践が求められている。

また、学校の文化芸術教育で専門性が求められる中、2005 年には、文化芸術教育に体系的な支援をする「韓国文化芸術教育振興院[44]」が設立された。「韓国文化芸術教育振興院」が行っている事業のひとつ「学校文化芸術教育」では、国楽、演劇、映画、舞踊、漫画・アニメーション、工芸、写真、デザイン、以上の 8 つの分野の専門家を、審査を通して選んでいる。そして、学校文化芸術教育を担う芸術講師の支援を希望する学校に講師を派遣する形式として、学校の文化芸術教育を増進させているのである。文化芸術教育の専門性や価値を高めるために芸術講師支援事業を行っているが、教科内の教育では、教科書の内容に基づいている。それによって、専門家を派遣するにも関わらず、教科内容は制限され、また、文化芸術教育に対する学校の認識が芸術性より一つの教科として認識されており、舞踊教育及び文化芸術教育の施行にはまだ問題があると考えられる。

小・中等学校の舞踊教育は、改訂によって教育内容が少しずつ変わり進んできたが、大学の舞踊教育では、民主社会以降から多くの変化がなかったと言えるだろう。したがって、小・中等学校の舞踊教育と大学の舞踊教育に分け、小・中等学校の舞踊教育は改訂教育によって、大学の舞踊教育は今ま

---

[43] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제－해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 5-15

[44] 「韓国文化芸術教育振興院」は、文化芸術教育の価値拡散と基盤構築を先導する上、文化芸術を通じる国民の生の質を向上させることを目指している。また、学校多様な文化芸術教育の政策及び事業の質実的な企画と推進、評価、文化芸術機関との協力・ネットワークの支援ができるように構成された特殊法人の団体である。

での流れを全般的に述べたい。

1. 小・中等学校の舞踊教育

(1) 2007 年改訂教育課程（2009 年～2011 年）

① 時代的な背景と教育の動向

舞踊教育課程について批判的な考察を行ったイ・ミヨン (2018) によれば、2007 年改訂教育課程は、第 7 次教育課程の以降、10 年ぶりに改訂されたことで大きな意義があるとする。そして、第 7 次教育課程の枠を維持しながら部分的に改訂し、急速に変化していく社会による多様な文化についての理解を教育に反映するための改定教育であった[45]。また韓国は、産業社会から知識基盤の社会に進み、機能と労働力を高めることを中心とした教育の方向が、創意・人材中心の教育に直された。それによる教育改定課程であり、イ・ヒョンギョン（2011）は、国内でグローバルの人材を育成し、創意的・世界的な教養を持つ人を養うために教育課程が改訂されたと述べている[46]。また、従来、教科書は国家作成配布であったが、今回から、教科書会社で開発したものを国家で検討し、認められたら配布するように変わった。

2007 年改訂教育課程で求めされたことは、①全人的な成長の上に個性を追求する人、②基礎能力に基づいた創意的な能力を発揮する人、③幅広い教養をもとに進路を開拓する人、④母国の文化について理解する上に新しい価値を創造する人、⑤民主市民の意識を基礎に共同体の発展に貢献できる人、ということである。言い換えると、社会から求められる基本能力を学んだ上、個人の個性をよく生かす創意的な人の国家的な貢献を求めたと言えるだろう[47]。それに従って、教育課程では、国民共通の基本教育課程と選択中心の教育を導入し、基本教育課程において歴史授業が増え、選択中心の教育課程においては生徒の能力と進路を考慮し多様な分野の内容が選択教科として新設されたのである。

② 学校舞踊教育

体育教科は、身体活動を通じて活気に満ちた生活、他人との競争力と協力ができる資質を培うために、さらに重要視されたのである。そして、舞踊教育は、体育教科の 5 つ領域である、健康活動・挑

---

[45] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제 7 차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 264-265

[46] 이현경(2011)「2007 개정교육과정에 따른 표현활동 영역에 대한 인식―초등학교 교사 중심으로―」중앙대학교 교육대학원, 석사학위 논문, pp. 1

[47] 「2007 개정시기―교육과정 구성의 방향」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 21 日 参照）

戦活動・競争活動・表現活動・余暇活動の中、「表現活動」に組み入れられた。また、身体活動が教育の内容と手段になり、健康な体力と創意的な思考力・共同体意識などを習得することができるように構成されたのである[48]。

小学校の舞踊教育では、多様な表現要素を理解し、表現する方法を学び、自分の表現及び他人の表現を見ると共に作品の鑑賞を目指した。小学校の 1 年・2 年は第 7 次教育課程と同じであったが、3 年は動きの表現、4 年はリズムの表現、5 年は民族表現、6 年はテーマの表現のような学年による中心領域を設定した。それは、以前より内容がさらに体系的になり、段階的な学習であると見えるが、実は、従来の舞踊教育の内容を整理した程度のことだった考えられる[49]。

中等学校の舞踊教育では、小学校で学習した内容をもとに、伝統・現代表現について学ぶように構想されていた。具体的には、動き・理解・民族・テーマ表現に分けられ、創作活動が主な中心になった。そして、表現方法を学び、創作と鑑賞するによって審美的な表現ができるようにし、他人との関わり及び伝統的な意識と礼儀を培うことを目指した。

(2) 2009 年改訂教育課程（2011 年～2017 年）

① 時代的な背景と教育の動向

2009 年改訂教育課程では、次のような人間の資質を追求する。①全人的な成長に基づき、個性の発達と思いやりを持つ人、②基礎能力をもとに新しい発想と挑戦を通し、創意性を発揮する人、③文化的な素養と多元的な価値に対する理解ができる人、④世界につながる市民として配慮と分かち合う精神を持ち、共同体の発展に参加する人、である。そして、「創意的体験活動」を導入しながら特定の学期、あるいは、学年を決め、ある科目を集中的に教育する「教科集中履修制」を実行した[50]。言い換えると、「創意的体験活動」の実施は、2009 年改訂教育課程が求める人間の資質を養うための教科以外の活動であったと考えられるだろう。また、イ・ミヨン（2018）によれば、学習の効率性を高めるために履修科目を減らし、音楽と美術教科は「芸術科目」に通称されたのである[51]。

加えて、2009 年改訂教育課程には、グローバル時代による創意性・他人との関わり・自分の個性を生かす教育として、小学校での「創意的体験活動」は、基礎生活の習慣の形成と共同体意識の培養と

---

[48] 이현경(2011)「2007 개정교육과정에 따른 표현활동 영역에 대한 인식―초등학교 교사 중심으로―」중앙대학교 교육대학원, 석사학위 논문, pp. 15

[49] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제 7 차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 264 - 266

[50] 「2009 개정시기―교육과정 구성의 방향」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 21 日　参照）

[51] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제 7 차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 266

個性・素質の発現に重点を置いた。さらに、中等学校では、他人と分かち合う暮らしができる態度を確立し、自分の進路について探求、自我の発見と確立をしようとする[52]。

② 学校舞踊教育

2009 年改訂教育課程の舞踊教育について研究を行ったイ・サンミ（2014）は、学校舞踊教育について、教育課程が改訂されたにも関わらず、2007 年改訂教育課程と類似しており、「創意的な人柄」を養うための内容が追加されたが、目に立つような改訂内容はなかったと述べている[53]。

小学校では、1 年・2 年の「楽しい生活」という統合教科の中で行い、創造力と文化の理解をめざした。そして、3 年から 6 年までは、体育教科の表現活動の領域に含まれており、3 年・4 年は、動きの表現とリズムの表現として活動を区分し、5 年・6 年は、4 年間学んだことに基づき、身体表現の能力を高める身体活動が行い[54]、テーマ表現と民族舞踊が構成されたのである。また、中等学校の舞踊教育も、教育内容が 2007 年改訂教育課程からほとんど変化なく施行されたと考えられる。

2011 年、「韓国文化芸術教育振興院」では、各学校に派遣され舞踊教育を行う芸術講師が教育の資料として活用できる「教授・学習課程案[55]」を表した。それによって、学校舞踊教育の内容を体系化することができ、先行研究（タク・ジヒョン、2014）[56]で表れた発表された「教授・学習課程案」の内容を表 1 としてまとめた。

	舞踊教育の目標
小学校	即興的で創意的な遊びを通じ、舞踊の要素を理解する。 視覚・聴覚・動きなどの統合的表現を通じ、多様な感覚を発達させる。 自分の感情・考えを体で表現し、表現の多様性を経験し個々の独創性を培う。 動きを探索・発見する中、創意力と認知力を開発させる。 多様な文化と時代的舞踊の理解し、文化遺産として舞踊の重要性を認識する。 他教科の素材あるいは内容を舞踊に適用し、生活としての舞踊の理解する
中学校	舞踊の要素を理解し、創作の原理・過程・構造を理解する。 舞踊の即興と創作過程を通じ、問題解決能力を養う。

52 「2009 개정시기―창의적 체험활동」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 21 日参照）

53 이상미(2014) 「중학교 체육 교과서 민속무용에 관한 연구―2009 개정 교육과정 중심으로―」경성대학교 교육대학원, 석사학위 논문, pp.35

54 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제7차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 266

55 韓国の『韓国舞踊教育学会』と『舞踊教材研究会』が担当し提示された舞踊教育の目標である。

56 탁지현 (2014)「문화예술교육 지원사업에 대한 예술강사 인식에 관한 연구」『한국무용교육학회지』, 25(3), pp. 27－28

	舞踊を文化遺産として学習し、物事や現状に対する理解の幅を広げる。 多様な文化と時代的・歴史的な背景から舞踊を理解・実行する。 芸術鑑賞の能力を養う。 動きの表現を通じ、他人との意思疎通ができるようにする。 開放的な思考を持つ文化人としての様子をそなえる。
高校	舞踊の要素を自由に活用できる。 多様なジャンルの舞踊を経験し、舞踊の芸術的な特性を理解する。 振り付けの原理と方法を理解し、作品を芸術的に表現できる。 芸術形式として舞踊を理解する上、自分のアイデアを発展させる。 舞踊鑑賞を通じる批判的思考を養う。 自我を開発し、自己治癒的の機能を実現する。 自分と家族及び芸術と文化の関わりを理解し、それらとの疎通ができる。 舞踊を通じ、創意的なリーダーシップを養う。 多元的認知ができる文化芸術人として成長する。

表 1．小・中・高等学校舞踊教育の目標

しかし、表 1 のように舞踊教育の目標が現れたにも関わらず、各文化芸術教育を担う芸術講師らのみ教育内容の理解ができ、そして、一般教師と内容の共有や理解ができないまま文化芸術教育が行ったのである。さらに、ベク・ジョンヒ（2016）は、学校文化芸術教育が困難としている理由として文化芸術の専門人力に対する体系的な政策ができていないことを指摘している[57]。このように、学校舞踊教育にはいくつかの問題があると考えられる。それに従って、「韓国文化芸術教育振興院」は、「教授・学習課程案」の認めと共に、文化芸術教育を国語・科学・数学など基本教科のように単に知識を伝える授業として認識する考え方と、学校教科の一部を担当する派遣者として芸術講師を考えることに対する、学校教師の研修を行い、現在まで続いているのである。また、イ・ミヨン（2018）は 2009 年改訂教育課程の舞踊教育について、文化芸術教育の目標が定立され、一部の教科を教育の目的、あるいは、学問の性格によって「教科群」としてまとめたが、舞踊はいまだ体育教科の一部になっていることを指摘しているのである[58]。従って、舞踊は、学校教育としては外的な面での変化があったと言えるが、舞踊の芸術的な性格が教科として認められなく、それによる教育実行のための実質的な中身はあまり改善されていなかったと考えられる。

[57] 백정희 (2016)「한국문화예술교육정책과 학교무용교육의 실천과제 연구」『한국체육학회지』, 55(4), pp. 441
[58] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰—제7차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 267

(3) 2015 改訂教育課程（2017 年～現在）

① 時代的な背景と教育の動向

2015 年改訂教育課程は、現在まで韓国で実行されている改訂教育課程であり、「創意融合的な人材」の養成をモットーに掲げているのである。そして、「理解中心の教育課程」という理論をもとにする「核心概念」を強調している。言い換えると、単に知識と機能を与えることではなく、学問を構成する核心の内容が知的な道具として構成された際こそ、教育課程が目指す人材を養うことができると観ることである[59]。また、求める人間相は 2009 年改訂教育課程と似ているが、バク・ヘヨン（2017）によれば、学校教育課程を通じて養おうとする「核心力量[60]」があり、情報化の時代によって多様な領域の知識を融合し、創意的視覚の発揮ができる人材が求められている。それに従う力量中心の教育課程に転換しようとしているのである[61]。

② 学校の舞踊教育

舞踊教育は、2007 年改訂教育課程（2009 年～2011 年）から体育教科の 5 つ領域の表現活動に構成されたまま続いている。そして、小学校から中等学校まで、舞踊教育で表現に対する概念を理解するという意味として、動き・リズム・民族・テーマの表現に区分されているが、教育の教科内容は 2007 年改訂教育課程（2009 年～2011 年）とほぼ同じである。一方、教育の形態として、従来の舞踊教育は、体育教科の内で教科教育中心に実施されてきたが、2015 年改訂教育課程では、教育課程の多様な試しにより、多様な形態として学校教育内の舞踊教育が行われるになった。

その代表が、中学校の「自由学期制」の導入であり、芸術体育活動が重要な領域として設定されたのである。さらに、舞踊教育を通じて創意性と感性を養い、自分について探索することができることを求めている。そのために、体育教科の内で制限的に扱われた舞踊教育が、自由学期制授業として体育教師と専門芸術講師による多彩な教育現場で行っているのである。また、教育部からは、創意的な体験活動の中、豊かな人性を養うための舞踊教育、芸術クラブ活動の活性化を核心改訂の方向として提示している。そして、裁量の活動時間及び教科時間以外の放課後に行う特技活動など、多様な形態として舞踊教育が実行されている。また、学校のスポーツクラブを拡大する上、生涯の体育活動とし

---

59 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제7차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp.267-268

60 「核心力量」の構成；自己管理の力量、知識譲歩処理の力量、創意的思考の力量、審美的感情の力量、意思疎通の力量、共同体の力量 「2015 개정시기-추구하는 인간상」（국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr、2018 年 6 月 22 日　参照）

61 박혜연 (2017)「2015 개정 교육과정에 따른 학교무용교육의 변화와 과제」『한국체육학회지』, 56(5), pp.579－580

て舞踊を楽しみに学べる経路ができたことも注目されるべきことである[62]。

このように2015年改訂教育課程での舞踊教育は､多様な形態として行われるように環境が拡大され、学校舞踊教育の流れの大きな変化であり、これからの学校舞踊教育においても良い機会になると言えるだろう。

2. 学の舞踊教育

大学舞踊教育は、2000年代に入り進んでいる人口減少による大学の構造調整が行い、規模が縮小された。そして、舞踊芸術家、教育者、指導者の養成に教育の目標を掲げ、基礎学問に止まる理論教育と公演中心の実技教育に重点を置いてきたのである[63]。

そのために、専門舞踊家として就職できるところは限定されており、大学卒業後の進路が困難になっていることが事実であった。そのために、現代社会の大学舞踊教育は、社会が求める人材について認識し、多様な形として時代の変化に応えられる創造的な人材育成を目指す創意的な学部教育を行おうとする努力を始めた。例えば、舞踊に関する多様な分野、舞踊教育、社会舞踊、舞踊治療、舞踊公演に関わる多様な分野に教育課程をわけ、舞踊教育課程の特性化を強調しようとする大学が増えているのである。また、4次産業革命に備え、2016年に教育部は、大学学士制度の改善方案として、多学期制・集中授業・融合専攻制の導入・専攻選択制の許容などを主な内容とする「高等教育法施行令」を表した。それに従う近年の大学舞踊教育についてチェ・ギョンヒ（2017）は、舞踊学部と他の学部と融合し[64]、融合専攻、専攻選択制の導入を通じ、生徒の専攻選択幅を拡大しようとし、多様な人材を輩出するために努力を重ねているとのべている[65]。ところが、このような大学舞踊教育の新しい試しは、まだ極めて少ないことであり、多角度から舞踊教育に対する考察が行う必要があると考えられる。

Ⅵ. おわりに

本稿では、韓国で近代学校が成立した時期から現在までの学校舞踊教育について、各時代の背景と教育の動向を概観し、学校舞踊教育課程の展開を検討することを目的とした。

---

[62] 박혜연（2017)「2015 개정 교육과정에 따른 학교무용교육의 변화와 과제」『한국체육학회지』, 56(5), pp. 580

[63] 유미희(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제－해방이후를 중심으로－」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 24

[64] 舞踊に引接する学問と融合し、舞踊に関する職についてより広く認識し、学問の理解を深化しようとすることである。韓国内の事例としては、「慶熙大学」の舞踊学部の韓方学―舞踊融合トラック課程と同大学一般大学院の芸術経営学専攻、「大邱カトリック大学」のビューティー芸術大学院の芸術福祉治療専攻、「仁荷大学一般大学院」のアートエンドテクノロジー専攻などの試しがある。최경희(2017)「대학 무용(학)과 및 무용 전공의 변화와 과제」『한국무용교육학회지』, 28(3), pp. 37

[65] 최경희(2017) 「대학 무용(학)과 및 무용 전공의 변화와 과제」『한국무용교육학회지』, 28(3), pp. 35-37

韓国の学校舞踊教育は、体育教科の体操と遊戯として行われ始めた。1891 年に「儆新学校」で最初に体操の時間が編成され、1895 年「教育入国招書」が発表されると共に体操が正式教科目として指定されたのである。そして、1930 年代になってから遊戯は、女子学校で求められる中、表現性が強調された。

また、小・中等学校教育の第 1 次教育課程（1955 年～1963 年）で体操にリズムを加えた形態として導入された舞踊教育は、目標と内容が明確ではなかった。ところが、第 3 次教育課程（1973 年～1981 年）になって「舞踊」という言葉を使い、体育教科内の独立単元として構成された。さらに、教育内容に民族舞踊を導入し、創作の表現舞踊と共に教えられたのである。このような教育内容の構成は、現在の学校舞踊教育のカリキュラムにも盛り込まれている。一方、女子学生のみ学習対象とした第 4 次教育課程（1981 年～1987 年）では、各学年による詳しい教育内容ができ、中等学校の教育内容には舞踊理論が含まれたのである。次に、第 5 次教育課程（1987 年～1991 年）では、舞踊の芸術性がさらに表れた教育内容ができ、前より動きと表現に対する認識・理解を求めた。続いて、第 6 次教育課程（1992 年～1996 年）では 21 世紀に備える教育として芸術に関する教科になり、表現活動が強化された。加えて、舞踊の美的な理解・歴史・動きの原理・創意的な表現・作品鑑賞など、教育の構成内容が変化し、舞踊教育の発展が可能になった。教育課程期の最後に人間の発達より価値実現を目指した第 7 次教育課程（1997 年～2006 年）では、初めて「創作」という言葉を使い、教育として舞踊の芸術的価値がさらに認められた。言い換えると、グローバル化の時代を主導する創意的な人材を養成するために、創意的な活動と共に自己実現ができる舞踊教育に対する期待が高くなったのである。

ところが、第 7 次教育課程（1997 年～2006 年）をもとにした 2007 年改訂教育課程から近年までは、舞踊教育課程の指導内容があまり変化していないのである[66]。また、体育教科は、2007 年から 2015 年改訂教育課程まで身体活動の価値を実現する上の全人教育という教育目標を掲げてきた。それによって、体育教科に属されて教えられた舞踊は、学校教育の教科として芸術性が認められなかったと考えられる。一方、舞踊と同じ芸術である音楽と美術は、2009 年に「芸術」という独立教科として成立したのである。芸術の分野である舞踊を、芸術教育として認めていないまま、「創意融合型の人材」を求めるために学校教育課程で文化芸術教育が注目される状況は、矛盾があるだろう。

また、大学舞踊教育は、1963 年に体育学科から離れ、独立学科として設立されてから近年まで、舞踊の専門芸術人を養う面で発展してきた。その流れの中、舞踊の公演芸術や創作活動の活性化ももたらしたのである。ところが、人口減少と経済発展の厳しさによって就職が困難であるということから、舞踊専攻を希望する生徒が減少している。従って、大学の舞踊教育は、変化しつつある時代に応える

[66] 이미연(2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제 7 차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 270

ための多様な教育課程の開発と特性化を生かす新しい文化創造ができるような挑戦が必要であると考えられる。

近年の韓国学校教育は、「創意融合的な人材」を求め、多様な領域の知識を融合し創意的に見ることができる人材育成を目指しているのである。これは、自分の考えや感情の自己我実現、多様な分野と統合する創意的表現と思考、他人と共に活動しながら相手に対する理解と思いやりが培われる[67]という教育的価値を持っている舞踊にもつながることであり、これからの学校教育課程がさらに求めるべき理由であろう。加えて、チェ・ギョンヒ（2011）[68]が述べたように舞踊教育の価値は、身体の発達に限ることではなく、知的能力及び想像力・情緒などを含む人の成長を導くことである。並びに、他人と一緒に作品を創作する過程を通じ、人との関わりの改善ができ、社会市民としての役割を果たすことができると考えられる。

また、これからの学校舞踊教育の研究に対し、ベク・ジョンヒ（2016）が、何をどう教えるかについてさらに研究するべきであると主張しており[69]、バク・ヘヨン（2017）は、学校舞踊教育の形態による具体的な指導内容の開発が必要であると指摘している[70]。このような先行研究の指摘を踏まえて筆者は、教育として舞踊の価値をよく生かすためには、舞踊教育の目的と役割を改めて自覚し、舞踊教育内容の理論化・指導内容の具体化・体系の正立・特性化を生かす多様な舞踊教育課程の実行など、学校舞踊教育に対する研究を行うべきであると考える。

本稿では、近代学校が成立されてから現在まで実行されてきた学校舞踊教育の変遷課程を概略的に検討することにとどまっているため、各時期の舞踊教育課程に対する批判的な考察、学校教育としての舞踊教育について分析研究、韓国で舞踊教育はなぜまだ独立芸術教科として認められなかったのか、舞踊の芸術性は何か、学校舞踊教育が目指すべきことは何か、舞踊教育が女子学生に限って行った時期があったが、舞踊とは性に限ることなのかを検討できなかった。これは以降の課題として残された。今後、文化芸術教育が求められるにつれ、舞踊はどのようなものなのかという舞踊に巡る理論的な接近と共に、人間が豊かな人生をよりよく生きるための教育として何を目指すべきなのかを模索したい。そのうえ、教育の根本目的に最も合う教育としてある限界に限らず、自己実現と発展できるようにする学校舞踊教育の構築を考えていきたい。

---

[67] 고현정(2017) 「앎과 지식 구성을 통한 PBL 지식창출 공간 고찰과 대학무용교육 모듈」『한국무용교육학회지』, 28, pp. 61

[68] 최경희(2011) 「사회적 소통으로서 무용교육의 힘—그 의의와 가치」『한국예술연구』, 3, pp. 105-106

[69] 백정희 (2016) 「한국문화예술교육정책과 학교무용교육의 실천과제 연구」『한국체육학회지』, 55(4), pp. 441-442

[70] 박혜연 (2017)「2015 개정 교육과정에 따른 학교무용교육의 변화와 과제」『한국체육학회지』, 56(5), pp. 586

参考文献

日本語文献

木場 裕紀（2017）「アメリカ高等教育におけるダンス教育の誕生―カリキュラムの観点から見たマーガレット・ドゥブラーの業績の再評価―」『教育学研究』、84（2）、77－86 頁
中川済（1903）『児童表情遊戯』三育社、5－6 頁
三橋広夫・三橋尚子訳（2015）『東アジアの歴史―韓国高等学校歴史教科書』　明石書店、176 頁

韓国語文献（ハングル順）

고현정(2017)　「앎과 지식 구성을 통한 PBL 지식창출 공간 고찰과 대학무용교육 모듈」『한국무용교육학회지』, 28, pp. 45-63
김혜정, 서차영, 서영님, 전미숙, 오레지나 (2001)『무용이론』교학사, pp. 6-7
김지영 (2010)「教育課程變遷에 따른 初等舞踊教育의 分析―1954 년부터 2007 년까지―」한국체육대학교, 석사학위 논문
박수현(2014)「2009 개정 체육교육과정 표현활동 지도의 난점과 개선방향」『한국무용교육학회지』, 25(3), pp. 45-57
박혜연(2017)「2015 개정 교육과정에 따른 학교무용교육의 변화와 과제」『한국체육학회지』, 56(5), pp. 577-587
백정희(2016)「한국문화예술교육정책과 학교무용교육의 실천과제 연구」『한국체육학회지』, 55(4), pp. 433-442
서예원 (2003)「초등무용교육의 현황과 과제」『한국무용교육학회지』, 14(1), pp. 29-46
오레지나(2013)「대학무용 교육역량 강화를 위한 특성화 방향 연구」『한국무용교육학회지』, 24(2), pp. 1-12
유미희(2006)「근대 경기(京畿)의 학교무용교육 고찰―개화기에서 1945 년까지―」『기전문화연구』, 33, pp. 147-169
_____(2009)「한국 무용교육의 변천과 과제―해방이후를 중심으로―」『한국무용교육학회지』, 20(2), pp. 1-27
이미연 (2018)「무용교육과정에 대한 비판적 고찰―제 7 차부터 2015 개정교육과정 중심으로」『한국예술연구』, 19, pp. 255 - 277
이상미(2014)　「중학교 체육 교과서 민속무용에 관한 연구―2009 개정 교육과정 중심으로―」경성대학교 교육대학원, 석사학위 논문
이은경(2017)「한국과 미국 초등학교 무용교육과정 비교 연구」강원대학교 대학원, 석사학위 논문
이현경(2011)「2007 개정교육과정에 따른 표현활동 영역에 대한 인식―초등학교 교사 중심으로―」중앙대학교 교육대학원, 석사학위 논문
정영둘 (1996)「무용 교육 내용의 변천과 그 과제」중앙대학교 교육대학원, 석사학위 논문
최경희(2011)「사회적 소통으로서 무용교육의 힘―그 의의와 가치」『한국예술연구』, 3, pp. 85-110
_____(2017)「대학 무용(학)과 및 무용 전공의 변화와 과제」『한국무용교육학회지』, 28(3), pp. 23－42
탁지현(2014)「문화예술교육 지원사업에 대한 예술강사 인식에 관한 연구」『한국무용교육학회지』, 25(3), pp. 17-43
하세영 (2008)「중등무용 교육과정 분석에 관한연구」공주대학교 교육대학원, 석사학위 논문

황숙영 (1998)「해방이후 무용교육의 사적 의의—1945 년～1959 년을 중심으로—」이화여자대학교 교육대학원, 석사학위 논문

국가교육과정정보센터 http://ncic.go.kr

한국문화예술교육진흥원 https://www.arte.or.kr

한국학중앙연구원 http://www.aks.ac.kr

한밭교육박물관 http://www.hbem.or.kr